

ボランティア派遣

プロジェクトの背景

JHP設立以前の1991年に、小山内代表が湾岸戦争後のイランのクルド難民救援に参加。ここで初めて大学生と活動を共にし、その成長する姿を見たことがきっかけとなり、地球的視野を持つ若者を育成する事業を開始。これまで、海外は、カンボジア、旧ユーゴ、アフリカ、インド、ボスニアなど、国内は、阪神淡路大震災、日本海重油災害、中越地震、三宅島帰島、東日本大震災などの救援活動にボランティアを派遣している。



子ども達と一緒に作業を行うJHPボランティア



カンボジアボランティア隊

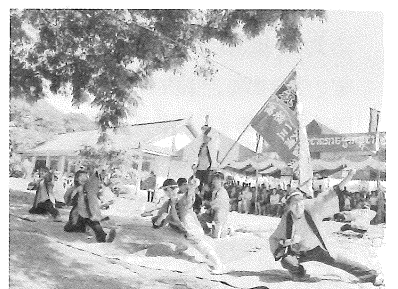
今年度は、8月隊のみ(2014年8月8日～25日)13名を派遣しました。北部のバットアンバン州の小学校にて遊具(ブランコ)の建設に汗を流し、学校贈呈式にも参加し、ソーラン節などを披露。その他、JHPプロジェクト見学、NGO見学等を行いました。



ブランコの塗装作業



完成したブランコで子どもたちと交流



贈呈式でソーラン節を披露

アフリカへ毛布をおくる運動

JHPはアフリカへ毛布をおくる運動推進委員会の構成団体として活動しています。この活動では、30年間にアフリカ20カ国以上に406万枚以上の毛布を送っています。

2014年度は、毛布募集に継続的に携わりました。同委員会に2014年度寄せられた毛布30,428枚、海外輸送協力金約30,110,523円は、ケニア、マラウイ、モザンビーク、コンゴの4カ国に届けられました。



参加者の感想

カンボジアの子供たちはとても一つ一つの幸せを大切に、幸せを大きく感じているのだと思いました。行く前の私は、私自身不自由がなく、幸せの一つひとつを粗末していたのかもしれませんが、今感じる私の幸せとは、感じるものではなく自分自身で見つけて作ることだと感じます。その一つが笑顔だと思います。(2014年8月隊 金城 尚義)

支援を受けながらも少しずつ成長していくカンボジアにこれからの可能性を感じました。何よりその成長していく社会を担っていく子供たちがJHPの校舎で学び、将来を夢見ることを考えると、今回ブランコ建設という形で支援に関われたことをとても嬉しく思います。そして最初は背中を押してもらっていた子供たちが空へ空へと、もっと高くと自らブランコを漕いでいく姿が彼らの未来、さらにカンボジアのこれからの重なる見えたこと、忘れることはないと思います。(2014年8月隊 竹内 夕貴)